

# みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場 広報こうた係  
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)  
FAX63-5139



今月の表紙は、4月13日(火)に行われた大草保育園の遠足の写真です。場所は、裏表紙で紹介している「おぎの里親水公園」で、4月にオープンしたばかりの公園です。大草保育園から歩いてきた子どもたちは、不動ヶ池に張り出した親水デッキを元気に走り回っていました。

## 今月の表紙

## こうたの民話

### 「あえぎ坂」 萩

萩と大草の境に、あえぎ坂という名の坂があります。はあはあ息がきれることを「あえぐ」といいますが、どうしてこの坂に、こんな名前がついたのでしょうか。

昔、萩村と大草村の境が、はっきりしていませんでした。そこで、「村境をはっきりさせよう。」ということになり、2つの村の庄屋さんが、話し合いました。しかし、はっきり決めることができませんでした。そこで、「朝、同じ時間に、両方の村から、北へ向いて、南へ向いて出発しよう。そして、出会ったところを村境にしよう。」ということになりました。

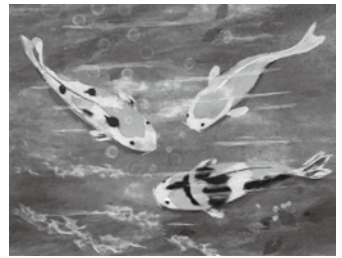
約束の日、萩の庄屋さんは、前日の稲刈りの疲れで寝過ごしてしまいました。一方、大草の庄屋さんは、きちんと約束の時間に出発しました。峠でしばらく待っていましたが萩の庄屋さんは来ません。ついに萩村の方に歩き始めました。とうとう庄屋さんの家まで、来てしまいました。萩の庄屋さん

は、びっくりしました。ここで話をしたら、ここが村境になってしまいます。そこで、なんとか大草の庄屋さんを押し戻そうと、「約束の日は今日でしたか。ごめんなさい。昨日は稲刈りでしてね。夜中までかかってしまってね…。」「まあまあ、ここでは話がしにくい。もっと向こうで。」などと、言い訳をしたり、なだめたりしました。押し戻すのに一生懸命でした。やっとのことで、峠まで来ました。もう少し押し戻そうとしましたが、大草の庄屋さんは、もう一歩も引こうとはしませんでした。

こうして、今のような村の境となったということです。

この話を聞いた萩村の人たちは、萩の庄屋さんが、なんとか大草の庄屋さんを押し戻そうと、あえぎあえぎ、必死になって登っていったというので、この坂をあえぎ坂と呼ぶようになったということです。

(「こうたの民話」の要約)



【全国和紙ちぎり絵】

長谷 久美 さん

## みんなの作品展!

今月の作品は、幸田文化協会の「春の文化展」からのセレクトです。



【全国和紙ちぎり絵】

齋藤 文子 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、広報こうた係までお送りください(デジカメ写真の場合はメールで!)

## 5月9日は「アイスクリームの日」

1869(明治2)年のこの日、日本で初めてアイスクリームが製造・販売されたのを記念して、社団法人日本アイスクリーム協会が制定しました。

日本人とアイスクリームの初めての出会い、1860年幕末。アメリカへの使節団の一人が航海日誌にアイスクリーム(当時の呼び名は「あいすくりん」)のことを「誠に美味なり」と書き残しています。69年、勝海舟に私淑し、渡米経験のある町田房蔵が、あいすくりんを製造・販売するお店を横浜に開きました。

大正時代には、一般にもアイスクリームは浸透していききました。戦後、アイスクリームの大衆化は進み、『ホームランバー』や『ジャイアントコーン』など、今に残るアイスクリームの名品が続々と売り出されたのです。

これら市販以外にも、最近季節の果物や地元産の食べ物素材にしたアイスクリームが売られています。観光シーズンを前に、旅行プランを立てている人も多いでしょう。旅先で当地ならではのアイスクリームを食べるといいかもしれません。甘くて冷たいアイスクリームが、きつと、旅の疲れを癒してくれることでしょう。

※資料: 社団法人日本アイスクリーム協会 <http://www.icecream.or.jp/>



# 青春トークリレー

△△第206走者△△

兵藤 研吾 さん

横落区在住 23歳 会社員

身長 168cm A型

好きなタイプ 明るくて活発な人

好きな芸能人 湘南乃風

私は幸田町で生まれ、23年間幸田町で育ってきました。

今年で社会人として4年目を迎え、会社の中での立場も人から教えてもらう側から、人に教える側に大きく変わりつつあります。そんな中で、いろいろな人から学んで、一人の人間として大きく成長できていると思っています。

プライベートでは中学時代からの仲間と毎週のように遊びや飲み会など、騒いでバカをやっています。仕事に遊びに毎日充実した日々を送っています。

そんな仲間たちをこれからも大切に、一生付き合っていきたいと思っています。

最後に、この幸田町に生まれて育ったことを、本当に幸せだと思っています。



## はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。希望者は企画政策課まで。



### わんぱくどより

「某月某日」  
「里保育園」

#### 元気な里っ子！

里保育園の園庭には子どもたちにお気に入りの土山があります。土管のトンネルに入ってままごをしたり、斜面を登ったり降りたり。夏には山の上から水をジャージャー流して「わあ、川だあー」とタイナミックな泥んこ遊びが始まります。でも、まだそのまま遊べないこの時期には《泥だんご作り》が盛り上がります。友だち同士で「土に水を少し入れるんだよ」

「ぎゅっ」と力を入れて土を固くするよ」「さら粉をかけて…」などと言いながら楽しげに作っている子どもたちです。  
また、里保育園の周りは豊かな自然に囲まれており、散歩によく出掛けます。散歩では大きい子が小さい子の手をつなぎ優しく連れ行ってくれ、小さい子もよく歩くことができます。  
豊かな自然環境の中で思い切り遊ぶたくましい体、異年齢のかかわりの中で相手を思いやる優しさが育つ里っ子たち、ますます元気になあれ！



▼平成22年度が始まって1カ月が経ちます。新しい環境で、ようやく落ち着いてきた頃でしょうか？ゴールデンウイークで身も心もリフレッシュしましょう。  
さて広報は、今月号からが新年度の始まりです。少しイメージが変わったのですが分かりましたか？今年度も正確な情報を町民の皆さんに提供していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。  
新聞やテレビなどでご存知の方もいると思いますが、5月1日から10月31日まで上海万博が開催されます。2005年に開催された愛知万博から、もう5年が経つんですね。上海は地図では隣ですが、海外なので行くのは大変です。愛・地球博のように人気のパビリオンは、何時間も並ぶのでしょうか？お金と時間があったら行ってみたいですね。  
今月号のP.13の大草保育園でジャグリングのパフォーマンスを再び撮影する機会を得ました。そこで最初に、なんと私がボールジャグリングを子どもたちの前ですることには、家族以外の人の前では初めて、緊張してしまい当然のごとく失敗しました。いいところを見せようと思ったのが間違いですね。練習を始めて、4カ月、まだまだ人に見せるほどの技はできませんが、毎日少しずつ練習を積んでいき、いつかは、子どもたちの前で披露できる日が来たら、うれしいなあと思います。(R)

## ちよと編集者のひびく